

文学館だより

平成29年 4月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 貴 日 高

つち わらち
地ふめど草鞋声なし山ざくら咲きなむとする山の静けさ
「海の声」「別離」収録

歌の意味

土を踏んで歩いても草鞋は声を出さず静かである。山ざくらのつぼみもふくらんでこれから咲くだろう山の何という静かさ。

歌の背景

早稲田大学4年の明治40年春に、東京の八王子市の高尾山に登って歌った作である。高尾山は新緑や紅葉の美しさで知られる。山の中を一人で歩いている静かさがしみじみと伝わる。「草鞋声なし」の擬人法の表現も牧水らしい自然さでいい。
(伊藤一彦著『命の碎片』より)

坪谷地区、仲深地区のみなさま、ならびにホームページ等にてご覧いただいているみなさま、いつも『文学館だより』をご覧いただきありがとうございます。先日愛媛からお越しのお客さまに「毎月、見えています」と言われ、正直なところびっくり致しました。と同時に感激しました。当初、ひとりでも多く地元の方に来ていただこうと書き始めたものが、今では県外の方の目に留まるようになってきているのです。

2年目を迎え、文学館の取り組みをよりわかりやすくお伝えできるよう努めてまいります。

“文アル” 仲間が牧水生家に集結



みなさん、『文豪とアルケミスト』（略称 文アル）というゲームアプリ、ご存知ですか。私？・・・もちろん初めて知りました。近代日本の文豪をキャラクター化したシミュレーションゲームです。40名以上もの文豪たちが登場します。（登場するようです!!）

芥川龍之介、夏目漱石、中原中也・・・その中に若山牧水も存在しているのです。

若者たちの間で流行っているようですが、そのゲームを通じて知り合った“文アル”仲間4名が牧水生家と文学館を訪れてくださいました。住所も違えば年齢も違う、接点は“文アル”だけなのです。

左絵を残してくださった方はフェリー、JR を乗り継いで愛媛県からお越しくださいました。牧水を知るそもそものきっかけはこのゲームからだったそうですが、それから歌集を読み、本格的にはまっていったようです。

宮崎大学の学生さんは学内で雑誌「mu-mu (ム-ム)」の編集に携わり、牧水イベントを地元でと意欲を燃やしていらっしゃいました。

東郷出身の学生さんは卒業論文で牧水を取り上げる予定のようです。そして、将来地元に戻ってきた折には何かお手伝いをしたいという気持ちをお持ちのようです。

もうお一人は生まれも育ちも福岡。これまで文豪を知る機会もなかったようですが、“文アル”効果ですっかり牧水に惚れ込んでしまったようです。

ゲームを通して若者が牧水を知り、牧水の輪ができ、その和が全国に広がっていくなんて、素敵すぎませんか。



一度検索してみてください

“ 文アル ” もしくは “ 若山牧水 文アル ”

ようこそ“文アル”仲間たち

私たちは忘れません あの日のあの光景のこと

熊本地震から1年。熊本の町は一夜にして何もかもが一変しました。

併せて、先月11日は東日本大震災から6年を迎えました。

家族を亡くし時が止まったままの方々、復興に向け力強く歩み始められた方々へ、心からお見舞い申し上げます。

去年は地震を痛み、詠まれた短歌が多く文学館に寄せられました。熊本を思い、寄せられた作品の公開展示を致します。作品へ込められた思いを文学館から届けます。

みなさま、どうぞお立ち寄りください。



第6回青の國若山牧水短歌大会に寄せられた作品他より (一部抜粋)

- 屋根落ちし白壁漆喰裂かれたる熊本城に地震よ鎮もれ 河野 幸生 (宮崎市)
- 白雲の異様な様の尾鈴山我の地震の情報となす 永友 登美 (川南町)
- 冷房を入れて査定を待ちをりぬ家の内外地震後の審察に 佐渡 京子 (熊本市)
- 熊本の地しんで家がこわれてるだいじょうぶかなご飯あるかな 荒木アミ (坪谷小3年)
- 考える命について心から熊本地震を心にとめて 河野 葉月 (富島高1年)



生家記帳ノートより

日向出身ですが、初めて来ました。熊本の地震疲れをいやされに来ました。
また来たいです。 【 4/30 熊本市 鷹巣さま 】

鹿児島から31名で来ました 牧水文学散歩をしています 熊本の皆様 がんばって下さいね
かごしまもめいっぱい応援しています。 【 5/15 鹿児島市 文学サロン月の舟さま 】



牧水短歌より (一部抜粋)

- わが廿八歳のさびしき五月終るころよべもこよひも時は地震する 「死か芸術か」
- わがむすめ六つになれるがいたいたしなるにおびえて瘦の見える 「黒松」
- 朝宵に相見る妻を子供等をまもりつつかなし地震のしげきに 「黒松」

大きなことは何もできないかもしれません

それでも、日常を奪ってしまった4月14日の熊本地震前震、16日の本震のあの日の、あの光景のこと、私たちは忘れません。

お客さまの声に元気をいただいています

昨年度、来館者カード、生家記帳ノートに寄せられたメッセージです。
みなさま、ありがとうございます。またのご来館お待ちしております。

- 台湾大学で牧水研究をしている者です。牧水の生家を見る宿願がようやく果たせました。また来れる日を楽しみにしています。これからも牧水研究続けられますように。
【台湾市 王さま】…後日、王さまより日本語で記された卒業論文が届きました。
- 旅が好きな私は各地で若山牧水詩人の「うた」の石碑を拝見してその感動感銘は忘れることはないでしょう。初めてこの地を訪れたことも心の糧になります。 【別府市 伊東さま】
- 展示物を見ているなかで、牧水の人柄のようなものが感じられました。追悼号の各文人たちのコメントが一気に読めたのはうれしかったです。 【豊橋市 ○○さま】
- 牧水の詩、書にふれ、73才の心は躍動し、生きる勇気がわきました。 【熊本市 渡辺さま】
- 念願の牧水記念文学館にすることが出来ました。本当に良かったです。 【倉敷市 宮脇さま】